

平成 27 年 3 月の解説（週間天気予報）

【3月の天候状況】

上旬は、低気圧が短い周期で、発達しながら日本付近を通過し、全国的に天気の崩れる日が多くなりました。1日から2日にかけては、低気圧が急速に発達しながら本州南岸から千島近海に進み、北日本太平洋側を中心に暴風雪となりました。また、9日から10日にかけても低気圧が急速に発達しながら北海道付近に進み、北日本太平洋側を中心に大雨となり、3月としては記録的な降水をもたらしました。旬降水量は北日本太平洋側で平年比560%、北日本日本海側で250%となって、いずれも1961年の統計開始以来3月上旬としては最も多くなりました。

中旬は、11日から12日にかけて発達した低気圧がサハリン付近に停滞し、日本付近には強い寒気が流れ込みました。北日本を中心に暴風雪が続き、北・東日本日本海側では大雪となりました。その後は低気圧と高気圧が交互に通過しました。

下旬は、旬のはじめは高気圧に覆われ晴れたところが多くなりましたが、23日から24日にかけて低気圧が北日本で発達し、冬型の気圧配置となって日本付近には強い寒気が流れ込んだため、26日頃にかけて気温が平年を下回ったところが多くなりました。旬の後半は全国的に移動性高気圧に覆われ、晴れて気温が高くなる日が多くなりました。そのため北日本では、旬平均気温が平年差+2.6となり、1961年の統計開始以来3月下旬としては1位の高温となりました。

月平均気温は、北日本と東日本でかなり高くなりました。北海道と青森県の20地点で、3月の月平均気温の高い方からの1位の値を更新しました。月降水量は、北日本でかなり多くなりました。北海道などの6地点で、3月の月降水量の多い方からの1位の値を更新しました。また、東日本日本海側と西日本太平洋側で多くなった一方、沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、西日本日本海側でかなり多くなり、東日本と西日本太平洋側で多くなった一方、北日本太平洋側では少なくなりました。月最深積雪は、北日本太平洋側の一部では平年を大幅に上回りましたが、そのほかの多くの地点では平年を下回りました。

【3月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値^{（注）}より6ポイント高い76%でした。各地方の適中率は、全ての地方で例年値より高くなり、特に中国地方と沖縄地方で10～14ポイント高くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より0.2小さい2.4となりました。各地方の予報誤差は、九州南部を除く全ての地方で例年値以下となり、特に関東甲信地方と北陸地方で0.5小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より0.3小さい1.9となりました。各地方の予報誤差は、九州南部を除く全ての地方で例年値より小さくなり、特に北海道地方で0.7小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は移動性高気圧に覆われ、広い範囲で晴れる日が多くなります。一方、日本の南海上に前線が停滞するようになり、南西諸島は他の地方より一足早く梅雨に入ります。この前線が本州南岸付近まで北上して停滞すると、東日本や西日本でも曇りや雨の日が続くことがあり、時には大雨となることもあります。天候に左右されやすい屋外の活動や行事を準備される際は、最新の週間天気予報をご確認ください。